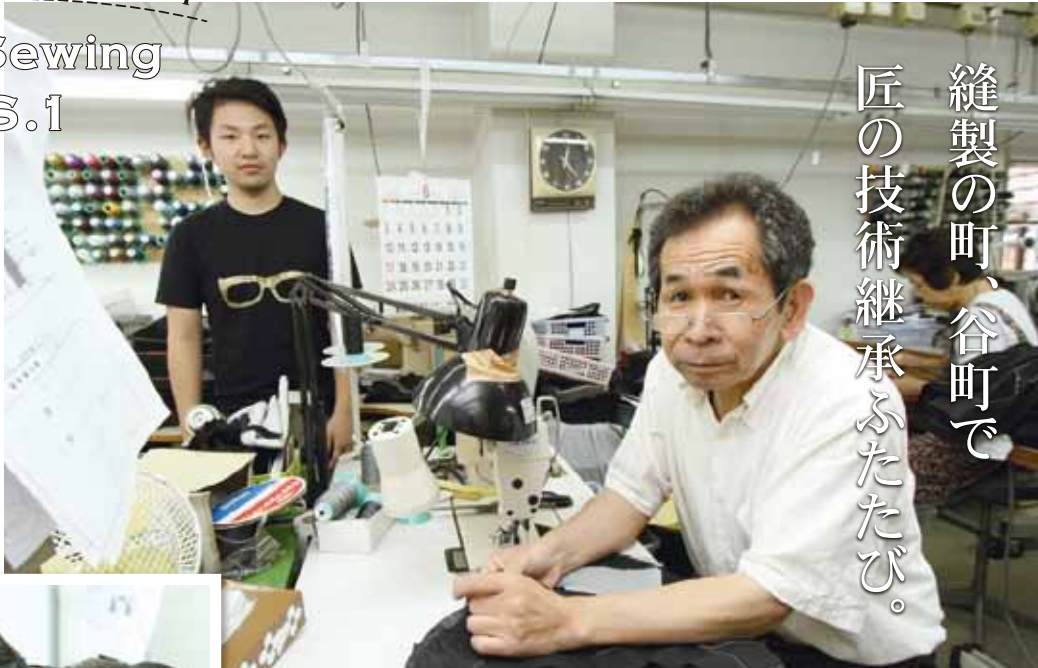


TANIMACHI

NFL Sewing

VS.1



継承。

縫製の町、谷町で

匠の技術継承ふたたび。

（NFLソーイング）では職人歴半世紀のベテランに20代の若者が大切に育てられている。15歳で弟子入りして5年で独り立ちできるようになった工場長・佐々田さんはこの道一筋48年。「1着縫えばナンボ、10代で当時の大卒以上の給料でね（笑）」と修行時代からの思い出を懐かしく話す。

縫製は前地縫いといわれる、スーツの前身と裏地を縫い合わせていく作業が難しいという。特に「袖を身頃に縫い合わせていく」作業に関してはこだわりぬいて



丁寧に1着ずつ完成させます



いる（NFLソーイング）では丁寧に袖を身頃に縫い合わせる際もやわらかく、肩が入りやすいように曲線をつけながら進める。「集中力が少しでも途切れると製品の仕上がりにも正直に出る」と縫い直す事も少なくないようだ。ミシンで縫う倍の時間が掛かるそうだが、「機械でやると肩や袖まわりがきつく締まり、着心地が良くならない。」長年製作し続けながらも思い描いた通りに仕上がった時の清々しさは変えがたいと話す。

佐々田

言葉で伝えきれない部分はどうしてもある。仕事っぷりで伝わったかわかる。経験や感覚で身に付けて欲しい。
to Katayama.

VS



片山

全ての工程を1人で縫えるようになりたいです。佐々田さんが5年で身につけたことを僕は3年で身につける気持ちです。
to Sasada.

自分の年齢の倍以上を職人ですごしている佐々田さんに畏敬の念を隠さない。メンズの縫製がやりたかったという彼は服飾系の学校を卒業したが授業で学んだのはレディーズばかり。「同じ服なのに紳士と婦人ではこんなに違うものだったのか」と当初は圧倒されたそうだが、日本で失われつつある古き良き職人の世界が、大阪、谷町の地がかすかに、しかし確実に息を吹き返そうとしている。



厳しい指導と見守る暖かさでホノモノの職人を育て上げます

COORDINATE 特別な日はフォーマルを着こなしたい。



2012 A/Wタキシードコーディネート

伝統や格式を感じさせるタキシードに、ブラウンベースの水玉柄ベストをコーディネートしました。蝶ネクタイも共生地でコーディネートして、大人の品格・エレガントさを演出しています。



フォーマルシーンを華やかに演出するメンズアクセサリ

結婚式ゲストやパーティーシーンにかかせない注目のアクセサリ—といえばラベルピン。定番のクラウンやフラワーモチーフ、揺れるクリスタルが存在感を醸し出すティアドロップなど最近ではデザインも豊富になってきています。フォーマルスーツの着こなしを華やかに演出するシルバーやダイヤの輝きがアクセントとなって、男性のオシャレ度が格段にアップします！

